

議 長 々	<p>定刻となりましたので、会議を再会致します。 (午後 1時00分)</p> <p>続いて、高良議員の一般質問を行います。1番高良議員。</p>
1番 高良議員	<p>天気も良くなりまして、午前中の天気が嘘のようでございますが、明るい気持ちで、一般質問を行いたいと思います。</p> <p>通告に従いまして、先ず、川本町の将来への方向性と方策を問う、という事でございます。</p> <p>川本町は現在「つながりとぬくもりの中で豊かに暮らせるまち」を目指し、「第5次川本町総合計画」の基で色々な施策を実施している処である。10年計画の内の2年半が過ぎようとしているが、成果が出ている事例もあるが出ていないものもある。わが町を取り巻く環境の変化は非常に早く、非常に厳しい状況と認識している。「第5次川本町総合計画」のような計画は、全国の市町村で策定されている。その中で本町が生き残る可能性があるのか疑問である。以上の事を踏まえ、下記の質問をする。</p> <p>第5次川本町総合計画を見直す必要はないのか。</p> <p>川本町がキラリと光るような独自の政策が必要ではないか。</p> <p>まち・ひと・しごと創生法では、各自治体の実情に応じた独自の取り組みを支援するとあるが、本町はどのような取り組みをするのか、以上でございます。</p>
議 長	<p>それでは、高良議員の「川本町の将来への方向性と方策を問う」に対する、答弁をお願いします。番外三宅町長。</p>
番外 三宅町長	<p>高良議員の、「川本町の将来への方向性と方策を問う」のご質問にお答え致します。</p> <p>先ず、「第5次総合計画を見直す必要はないのか」についてでございます。本町が現在、向こう10年のスパンで取り組んでおります第5次総合計画のキャッチフレーズであります、「つながりとぬくもりの中で豊かに暮らせるまち」、これはまさに、私が目指す基本理念を表したものであります。計画は、平成33年度を目途とする基本構想、そのもとに前期・後期5年としている基本計画のもとで、中長期視点を持ちながらも、議員ご指摘のとおり見直しは必要でございまして、実施計画については、社会経済情勢の変化に対応すべく、ローリング方式により、毎年見直しをかけ修正してきているところでございます。掲げております数値目標を常に意識し、民間の風も取り入れながらスピード感を持って、町民の皆様と一緒に総合力を持って取り組んでいるところでございます。どの世代の町民の皆様からも、「自らがやるんだ」という、そうした気概を持って、様々な提案をいただいたり、率先して課題に取り組んでいただいている姿を拝見しますと、私自身大変嬉し</p>

番外
三宅町長

く、また、心強く感じているところでございます。こうしたオール川本町としての一体的な動きこそが、町の大きな財産となり、町の再生に向けて、最大の原動力になるとの確信のもと、計画の完遂に向けて邁進しているところでございます。

次に、「川本町がキラリと光るような独自の政策が必要ではないか」についてであります。

職員は、情報の共有化、コミュニケーションの円滑化、現場主義を貫き、役場は、本町で一番先進的なサービス業でなければなりません。こうした基本姿勢を前提とした上で、先に平成27年度の予算編成方を打ち出し、検討すべき項目を指示いたしました。この指示にあたっては、議員ご指摘のとおり、本町らしさが光る独自の政策を打ち出していくことを強く意識しております。中でも、人口減少問題への対策となる、新たな雇用を含む定住人口の確保を最重点課題とし、それを実現することとなる取り組みを積極的に展開することが必要不可欠と考えております。

次に、「まち・ひと・しごと創生法では、各自治体の実績に応じた独自の取り組みを支援するとあるが、本町はどのような取り組みをするのか」についてであります。

議員ご指摘のとおり、先の臨時国会最終日に、重要法案であります地方創生関連法案が成立しました。この法律の考え方は、地方において、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たなひとの流れを生み出すとともに、その好循環を支える「まち」が活力を取り戻す、そうした取り組みとされております。実現に向けては、他の行政サービス度を比較する視点を持った上で、独自性を発揮することが不可欠になって参ります。野球に例えれば、どこを修正し、どこを補強すべきか把握した上で、戦力アップしていき、優勝を目指すという、こういう動きになろうかと思えます。本町におきましても、この法律対策への対応が必要と考え、既に設置しております全庁横断的な組織、まちづくり推進プロジェクトチームの業務として、「人口減少問題への対応及び地方創生に向けた対策の検討」を加え、検討を開始しました。法律に基づき、今後、国が年度内に戦略を樹立し、県においては27年度の上期を目途に、計画を策定する予定とされております。市町村にあっては、計画策定は努力義務とされたところですが、国からは、市町村向けに設けられます予定の交付金の採択にあたっては、計画策定度合いを勘案するとの説明もあっていることも踏まえ、町として独自の取り組みを盛り込んだ計画を、策定していきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員

先ず、ひとつずつやっていきたいと思いますが、今年の6月の定例議会で大畑議員の方から「つながりとぬくもり中で豊かに暮らせるまちづくり」と

1 番
高良議員 は、どういう事か、何が必要かという質問がありまして、町長の答弁が、つながりとぬくもりの中で豊かに暮らせるまちづくりが基本中の基本である、との答弁がある訳ですが、実際にこれ、何がつながりで、どういう事がぬくもりにつながって行って、どういう暮らしが豊かなのか、もう少しこれを具体的に分かり易く説明はしてもらえないでしょうか。

議 長 番外三宅町長。

番外
三宅町長 国語の勉強をここでしてもいけません、町民がとにかく川本町に住んで本当に良かったなという、そういう町づくりを進めたいという事でございます。

議 長 再質問ありますか。1 番高良議員。

1 番
高良議員 それを実現する為に第5次総合計画を実施されているところだと思うのですが、今、答弁にもございましたが、実情に即して弾力的な行財政の運用が可能となるようローリング方式により毎年、見直し修正を行っているという事でしたが、じゃあこの実施計画で修正されたものが基本計画へフィードバックして基本計画自体を修正していかなければならないというような事は起こっていませんか。

議 長 番外三宅町長。

番外
三宅町長 スタートして2年目でございますが、この33年度の目標計画、ここに向かってこれから進んで参ります。ここを崩したら前提が全て狂ってくるという事で、基本計画が狂うという事はございません。そこを目指してこれからも進んで参りたいと思います。

議 長 再質問ありますか。1 番高良議員。

1 番
高良議員 この度の議会で先ほど大畑議員さんの説明の中で、「後から高良議員がやるから、この辺でおいておきます」、という発言が人口問題のところであった訳ですが、10年後、平成33年に3,300人をキープすると、これが第5次総合計画の中に、これが一番ですよ、人口をキープしようというのが載っている訳ですが、現在の人口の減少状況を考えると、これは可能な目標だと実際出来る話だと考えておられますか。

議 長 番外三宅町長。

番外 先ほど、大畑議員のところでも答弁致しましたが、これを目指していき

三宅町長 　　いと、今これは出来ない事に変更しましょうというような考えは全くございません。積極的に向かって前進していきたいと思います。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　町長は出来る事だと言われますが、私は非常に難しい事だと、これは思います。ちょっと町民生活課長さん、お聞きしますが、この計画を組まれた24年の人口基データは、平成23年のデータだと思うのですが、その時点で川本町民は何人居られましたか。

議　長 　　番外鉦町民生活課長。

番外鉦町民
生活課長 　　これは23年の4月から3月までありますが、23年の4月1日でございますか。
　　（「3月」の声あり）3月ですね、分かりました。23年の3月31日現在で、3,698名でございます。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　23年の3月で3,698名、これが26年の6月末で3,552人、26年11月末で3,507人という事で、この減少というのが、年間80人から90人。今年の半年を見るのが45人でございますので、6月末から11月末で45人で90人ぐらいの減になりますよね、単純に計算で申し訳ないですが。そうするとその中で40人を増やそうというのが基本構想の中にありますよね、毎年40人ずつ増やして行って3,300人を目指すと。じゃあ実際この40人、増えてますか。

議　長 　　番外三宅町長。

番外
三宅町長 　　基本的にですね、こういう状況の中で本当に人口問題は厳しいというのは承知の事であります。敢えてそういう中でいろいろと政策を考え人口の減少を少なくしていくというところで、この3,300人という目標を立てた訳であります。難しい問題だという事は重々知りながら我々は今この問題に立ち向かっていくという事をご理解いただきたいと思います。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　それでは、ちょっと、まちづくり推進課長に聞きましょう。実際この計画を策定してから現在までに自然減を除いて何人増えましたか。

議 長	番外左田野まちづくり推進課長。
番外左田野 まちづくり 推進課長	はい、定住の成果として町の予算にも載せておりますが、24年度で27名、25年度につきましては少し減りまして11名というふうに出しております。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	2年間で38名。当初の目標では2年間で80名、という事はこの不足分の42名は、この目標を達成するんだという事であれば後年度へ被せていくという事で、ざらっと平均1回40人が46人とか48人とかいう数字がないと、この目標は達成できないという事になる訳ですよ。確かに町長の言われる「それを目指すんだ」という事は分かりますが、こういう事が前提にあるとこの第5次総合計画は出来る出来ないに関わらず目指していくんだという事の計画でしょうか。
議 長	番外三宅町長。
番外 三宅町長	あの本当はこちらから質問したいぐらいな感じですが、目指していくというか、これは本当に町の存亡を掛けて取り組んでいくものであります。結果として3,300人キープ出来ないという事になろうと思っておりますが、我々はこれを目指してこれからも進んでいきたいというふうに考えております。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	分かりました。今年の3月の定例会の町長施政方針で、「役場は本町で一番大きく進んだサービス業でなければなりません。」と言われております。それと「お節介と言われるぐらいの町づくりを進めたい」とも言われております。この第5次総合計画を進めるにあたっては、このサービス業と言いますか、その住民に対するサービスに理解を得ていくという事と、お節介ぐらいに皆さんの事を心配していきますよという、これがないとなかなかこれに書いてある事は今、出来ないと分かっているけども目指してやるんだという町長の答弁でございますが、そのぐらい難しい問題を多々含んだ計画であります。それで、このサービスという事を考えた時に、このサービスとはいったい何か、その辺の認識を少し聞かせて下さい。
議 長	番外三宅町長。
番外 三宅町長	あの一般論で申し上げますと、所謂、民間の事業・行政サービスとお役所仕事という言葉がありますが、そこの違いだと思います。例えば、来庁され

番外
三宅町長 　　た方に対する挨拶から始まって、民間と役場が差があるんじゃないかという気持ちを持たれたらいけないと思います。従ってこの本庁としては民間サービス並に先ず職員もそういう気持ちを持って全てあたっていこうというところからスタートしております。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　このサービスという事で何を求めるか、という事です。民間並みにという事で、どう言いますか挨拶等との事は当然その儀礼の範疇と言いますか、常識の範疇と言いますか当然の事なんです、その施策の中におけるサービスとはどういう事を求めていますか。

議　長 　　番外三宅町長。

番外
三宅町長 　　それぞれの事業ごとに見ていかなければなりません、この定型的な事業展開だけではなくて、住民の立場に立ったお客様の立場に立ったような事業展開をしたいという事であります。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　サービス、お客様の立場に立ったという事は、そのお客様に喜んでいただくとか満足していただくという事を目指しているものと思いますが、そのそこへ辿り着くまでに意識と言いますか感覚と言いますか、そういうところを随分、今の挨拶から始めなきゃならないというような事であれば、随分、皆さん頑張っていたかかないと出来ないような気がする訳ですが、その辺は日々そういう訓練はされている訳でしょうか。

議　長 　　番外三宅町長。

番外
三宅町長 　　意識改革という問題になって参りますが、日々そういう感覚での業務の取り掛かりというところを担当課長を通じて、職員には徹底しているつもりでございます。

議　長 　　再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 　　先ほどの答弁の中に、住民の皆さん一丸となって頑張らなければならないというような答弁もあった訳ですが、その今の第5次総合計画に対する進捗率とかこういう事は見直してちょっと変えていかないとかならんなどというところを、その住民の皆さんに分かるように情報の発信はされておられますか。

議 長	番外左田野まちづくり推進課長。
番外左田野 まちづくり 推進課長	個別の事業は全てという訳ではございませんが、毎年、事務事業評価をしております。その結果については、全て公表しております。ただこれを全部厚い物になりますので、皆さんへお配りしている事はしておりませんが、そういった物を評価して公表するという形で、それで各事業ごと、例えば達成できなかったものは見直しをすとか方法を変えるとか、そういったような材料に使っております。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	その深さの問題はあるとは思いますが、それはちょっとおいておきまして、その情報発信という点でちょっと気がかりなところがあるので、これも1点触れておきたいと思うのですが、川本町のホームページがございました。今度リニューアルされるようですが、その参考にもちょっと申し上げますが、今、川本町のホームページを開くと、いちばん左上に「緑にこだます音楽の里 Kawamoto」があります。その隣に青い葉っぱと白い花があります。その隣に黒い粒があります。これは川本町民だったら誰でも分かりますよ、何だって。このインターネットの情報発信は外へも向けてやっている訳ですよ、左田野課長。
議 長	番外左田野まちづくり推進課長。
番外左田野 まちづくり 推進課長	当然にインターネットでございますので、全世界から見れるものでございます。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	あれを見て、まずね知らない人が見て、じゃあ緑にこだます音楽の里、何をやっているんだろう。何も無いですよ、あのページに。どこへいけば良いんですか、分かるには。じゃあ次の緑の葉っぱと白い花。知っている者は分かります。知らない人、これ何。ましてや隣の黒い粒、これ、何ですよ。そういうところが配慮がないんじゃないですか。こういう事で情報発信が出来ていると思うのは私は大きな間違いだと思うのですが、町長、どう思われます。
議 長	番外三宅町長。
番外 三宅町長	捉える人によっていろいろ見方が違うと思いますが、その情報発信ですね、これから大切な事でございますので、今、議員が仰られた事も含めまして、

番外
三宅町長 今度ホームページ等も見直しをしますので、考えていきたいというふうに思っています。

議 長 再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 それが行政は大きく進んだサービス業でなければいけないとか、満足してもらおうという事にはなかなか現状は結びついていないような気がするんですよね。そういう事をひとつを、例えですよ。とっても分かり易い、例えばとってもそういう気がしてならないと。その何と言いますか、実際にやっておられる第5次総合計画、重点項目を挙げられて1つずつやっておられますが、実際にそのこれが成果が出ましたという重点項目が上がりつつありますというのが有れば発表して下さい。

議 長 はい、番外三宅町長。

番外
三宅町長 それでは個別には各担当課長から申し上げますが、今スタートして2年です。その進捗状況というところで発表をさせていただきます。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長 第5次総合計画の中で、6次産業の推進というのが、ひとつ重点というのが上がっております。これは今回の町長の行政報告の中にもありましたように、要は生産者がどう設けていくかというのを基本においた中で、その販路或いは加工の仕方を一緒になっていくという事でやりかけているところです。一部、試作等もやっておりますので、そういった部分では直接、販売にも結びついていっているとは思っております。6次産業ですので、今日やって明日、結果が出るものではありません。未だ2年目です。田に植えた物をやっと2回実を付けた程度ですので、未だ先は長いものだと考えております。

議 長 再質問ありますか。1番高良議員。

1番
高良議員 直ぐ答えを出して下さいとは言いません。どういう取り組みでどういう状況で、例えば伸びつつあるのか、なかなか伸びないのか、そういう事で結構なんです。今日も先ほど大畑議員の質問にもありましたが、川本のエゴマが足りていないと、本気でやるのならもっと作付け面積を増やすような施策があるんじゃないかと。実際、販売されている方が居られる訳ですが、地元産で足りないから他所から入れて売っていると、これが現状ですよ。そこをじゃあその地元産をなるべく賄えて、川本町のエゴマをして売ってけるようなシステムという、それこそ選択と集中で、そこへ選択して集中するものじゃないんでしょうか、と私は思いますが、如何でしょうか。

議 長	番外三宅町長。
番外 三宅町長	エゴマの作付け面積の拡大、これも大きな問題で、公社の営農指導員等も通じて、またJAにも働き掛けをしながらやっております。実際にエゴマの作付けでの所得と米の所得、比較してエゴマの所得の方が大きいというような事を今年度から施策として設けておりますし、これを更に充実していきたいというような事で、この産業振興の中でエゴマの拡大というものを、これからも続けていきたいというふうに考えております。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	それは27年度の予算の中に反映されるつもりでおられますか。
議 長	番外三宅町長。
番外 三宅町長	今、予算編成を各部署で検討しておりますが、これも今仰られた事も大切な視点でございます。現に26年度から予算に組んでおりますが、更に充実する事につきましては、これから検討して参りたいと思います。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。
1番 高良議員	私が議員をさせていただいた始めの頃の一般質問だと思うのですが、6次産業について、「これでエゴマ一本で良いのですか」という質問をした時に、三宅町長の答弁は「エゴマひとつでは難しいだろうから、新たな物を考えていく必要がある」という答弁を受けておりますが、その新たな物について何かあれから2年は経ちましたが考えておられますか。
議 長	番外谷川産業振興課長。
番外谷川産 業振興課長	なかなか直ぐ新しいこれが良いというのは直ぐには出てこないのが現実です。ただ、今、考えておりますのは、川本町はやっぱり水稻の面積が非常に多くて水稻に頼って居られる方が多いと、この米の6次産業化というのも1つの6次産業化にとっては大きな役割を果たすものと考えております。それで今回、その米の直販、農協を通さない直販ルートの開拓。それから今回特に米価については非常に下がっておりますので、米生産農家がそこで所得の打撃を受けているところで直販ルート等を通じた収益の拡大というのは、ひとつの大きなものだと考えております。
議 長	再質問ありますか。1番高良議員。

1 番
高良議員 直販ルートを考えられるという事で、直販ルートも私は悪いとは言いませんが、じゃあひとつ聞きましょう。川本町の米と他所の町村の米と差別化出来る要素はありますか。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長 米に付きましては、他でもっと美味しい米がたくさんあります。それで決して川本の米が特別美味しくてという事ではないと思います。ただこれは直販で売って、要は相手がきちっとこちらを信頼して、そこで固定的な販売ルートを見つけるというのが一番強い見方だと思います。あとは食べていただいて川沿いの米と三原の米はどう違うのかというのは、なかなか分からない部分があるかとは思いますが、そういう部分では食ってもらって後は信頼関係を作って広げていくという方法が一番だろうと思います。

議 長 再質問ありますか。はい、1 番高良議員。

1 番
高良議員 その差別化出来ないということであれば、なかなか信頼関係で売っていくというのは、考え方としては分からない訳ではないですが、これは今朝ほどもテレビでやっておりましたがこの間からしょっちゅうやっている訳ですが、隠岐の島の藻塩を使った米作り、魚沼産のコシヒカリと同じ値段で東京の方では取引されているようですが、そこまでとは言いませんけれども何か他の物との差別化を図った方が皆さんも努力をされて1対1でお客さんを増やすよりは、実際に美味しい物を作って口コミで広がっていく方が当然、販売の戦略としては経費も掛からないし、広がりも早いという事が実際ですよ。そこを考えて知恵を出していただいて、その差別化が出来るような物を同じお米でも差別化出来るような物を生産できるようにしていかなければ、なかなかその農業の置かれている現状、後継者が少ない、そういう事を考えるとなかなか収入も少ないという事を考えると、そのような事を役場が知恵を出すというか、案を出していただくような事が必要だと思うのですが、町長さん分かっておられると思うんですよ。3月の施政方針で「役場の職員が元気を出せば本町は明るく元気になります。ひいてはそれが川本町の発展につながるものと考えております」と言われております。要は職員の皆さんがいろいろ知恵を出しやる気を出してやっていただく、これが一番必要ですよ、町長さん言われてますよね。そういうつもりに皆さん方の意識がだんだん変わっているかどうかですよ。そうした時に先ほどのホームページの問題じゃないですけども、言いましたけれども、そういう状況だと音楽の町と言っても、それから何処で何があるのか、全く載っていない。ましてや悠邑ふるさと会館のリンクへ飛ぶと11月末から全く更新されていない。そういう事で非常に信用できない、分かりづらい、使いにくいというようなホームページになっていると思うんですよ。外からの人が見られた時に特にだと思う

1 番
高良議員

んですよ。そういう事を踏まえて、人が見る時に本当にそのサービス業とはどういう事か、人の心に伝わる・伝える・満足してもらうという事はどういう事かを小さな事から考えてやっていただいて、その施策ひとつひとつにも自分たちは何がしたいんだ、どうしたいんだ、どう持っていきたいんだと見えるような施策を細かにやっていただかないと、先ほど町長が言われた町民一丸となってというような事は、到底、私は無理なような気がする訳ですが、その辺は町長さん、どう思われますか。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

たいへん厳しいお言葉をずっといただいておりますが、職員もですね、繰り返しになりますが、この民間の発想を入れながら真剣に業務に励んでいるというところは認めていただきたいと思います。それで各事業が町民の皆さんに何をどういうふうを持っていくかという事が見えないという点でございますが、これにつきましてはホームページ等を通じながら、これからそういう物が町民の皆さんに透けて見えるように検討していきたいというふうに思っています。

議 長

再質問ありますか。はい、1 番高良議員。

1 番
高良議員

分かりました。お願いしたいところですが、情報発信もですねインターネットのホームページは分かりにくいんですが、川本町が何をやるかというのは「広報かわもと」は分かり易いんですよ。この「広報かわもと」に載せてあるデータがパッと悠邑ふるさと会館のリンクでもそのまま持っていったらそのまま使えると思うんですが、そういうところも考えてホームページの整理というのは今度、変えられるようですから、その辺を含めて町外の皆さんが分かり易いように。何をやっている町で、どういう事を目指している町なのかという事が分かること、川本町の特徴が分かること、そのようなことをUターン・Iターン及びそういう人口問題に絡めていく為にも分かり易く、川本町という町は、こういうことまで分かるよう痒いところまで手が届くような情報が載せてあるとか、載っているとか言われるようなものにしないと本当に人口問題でUターン・Iターンの方が安心して来られるのは痒いところまで手が届くような安心感、というものが得られないとご承知のように日本は何処も人口が減少しております。一部の都市部を除いて何処も減少で5次総合計画というような計画もどこでもあると言いましたが、そういう中で各町村がしのぎを削ってと言いますか、人の奪い合いをしているのが現状です。その中で、この間どこでしたかね、800幾らの町村が消えていくという話がありましたよね、そういう事が出てくると何処でもそういう町村は特に人口問題対策に本気になる訳ですね。これは25年3月でしたか、日本創成会議の人口減少問題検討会の分会会ですか、896の市町村が消えていく

1 番
高良議員

と。現在、平成の大合併で1, 741ある市町村のうち、896個が消えていくだろうという予測が出ました。そういう事を受けて、その政府も、まち・ひと・しごと創生法で田舎の発展と言いますか、その住みやすさと言いますか、生活を助けていかないといけないという事で、先ほど言ったような各自治体の取り組みを支援するような法律が出来た訳です。この川本町もそれに則って後から又やりますが、そういう事を含めて第5次総合計画を見直す事はない事で、これを目指してやるんだという事は分かりましたが、それをされるにあたってはサービス業の本心と言いますか、それに基づいて細かいところまで気配りが出来る事で町民の皆さんの理解を得ていけるような事にやって欲しいと思ひまして、これは終わります。

次に、川本町がキラリと光るような独自の政策が必要ではないかという事ですが、当然必要だと皆さん言われると思うのですが、具体的にこれをどの分野で、例えば6次産業でやるのか、教育問題でやるのか、どの分野でやられようと思ひますか。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

既にいろんな動きをしております。教育でも小中一貫教育というところを議論いただいております。また定住対策、これからは先進事例として美郷町がございしますが、それを上回るような若者に支援いただけるような、この住宅建設等も考えていきたいと思ひます。それから雇用の確保、これもこの度の組成関連法案に則って、この可成りその法律に後押ししていただきながら、この雇用というものも大きく確保する、そういう動きを27年度はしていきたいと思ひます。その他、今、谷川課長が言いましたが6次産業化、これにつきましてはこの特に川本につきましてはエゴマが今ベースになっておりますが、今ありましたようにとにかく川本と言えはこういう名物が有ると、特産としてまだまだ作り出していきたいというところ。そういうところでまだまだこれから取り組んでいく事がありますので、今申し上げた事以外のものでもございしますので、慎重にこれから進めて参りたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。1番高良議員。

1 番
高良議員

今、町長から6次産業の事が又出ました。小中一貫教育というのは制度の問題で、独自にするどうのこうのという問題ではなく一貫教育にするか、しないかの問題だけなんです、6次産業と言われれば、有る物をどう利用していくか、という事ですよね。日本でもいろいろ村おこし事業です、はるか昔の大分県でしたかね、平松知事の一村一品運動を。これは元々は確か或る何とかという町が始めていた事を県が取り上げてやったような事業で大成した訳ですが、そのような物。例えば四国の大畑議員にもありましたが馬

1 番
高良議員

路村辺りでも柚子しか育たないんですよね。平松知事の一村一品運動は、確か梅・栗植えてハワイに行こうっていうキャッチフレーズで、皆さんの心を明るくする、そういうふうな手法をもって皆さんのやる気を起こしてやっていかれた訳です。この川本も何かそういう新しいキャッチフレーズと言いますか、皆さんの心を鼓舞するような事と他の事例にしましても必ず型破りな役場の職員さんが居られます。その方の動きの速さ、人を引っ張る力、そういうものに引っ張られて大きくなったものが随分あります。馬路村もその通りだと思います。この例だと思います。他にも何でしたっけ、羽咋市のローマ法王に米を食べてもらったというような話、そこの米はブランド米になって今、確か普通の米の3倍か4倍の値段だったと思いますが、それになってます。それも味も何も違いません。ただそういう考えでローマ法王が食べたお米という事で売ったという。そのような知恵の使い方は無限ですので、その知恵をしっかり發揮していただいて、他の町との差別化を図っていくような取り組みを是非ともお願いしたいと思うところですが、その先程来、町長は職員の研修もしてだんだん変わっているという事ではございましたが、皆さんの役場の職員の皆さんはただ努めておられる公務員じゃあ町民側から見ると困る訳です。そこでは独自の発想をしていただかないと国からの施策にしろ何の情報にしろ一番最初におりてくるのは、この役場というところにおりてきます。そこから皆さんがそれをどう使うか発想を出来るか出来ないか、これが他町村との勝負になります。そのところを絶対に負けないように皆さんは努力していただきたい、と思います。それでないとなかなか町民の批判は収まらないような気がします。この度も給与云々の皆さんご承知の件がございましたが、それにも早速、声が上がってくるというような事でございますので、普段の皆さんのやる気を町民の皆さんに見せていただいて、私達はやる気になってるんだと分かるような施策と戦術をやっていただきたいと思う訳ですが、町長さん、如何でしょう。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

先ほどからずっと、うちの役場の職員がレベルが低いという事をずっと仰っておられるような気がするんですが、繰り返し申し上げますが、職員もそういう事を勉強しながらそれぞれ業務に真摯に向き合っているというところもご理解いただきたいと思います。それでいろいろ仰いしましたが、全てこの役場の業務というものは町民の生活に直結して参ります。町民の視点に立ってこれからも業務を進めていきたいというふうに考えておりますので、どうかよろしくお願い致します。

議 長

再質問ありますか。1番高良議員。

1 番

ちょっと訂正して欲しいですね、私は役場の職員がどうのこうのと批判を

高良議員

している訳じゃないですよ。要は物の考え方が役所型の物の考え方では、その発想が自由に飛べないんですよ。それは出来ないんですよ。それは今までそういう縦割り行政の中で国・県・町と繋がるところでやってきた訳だから、その当然、上司の決裁もとらなきゃいけないどうのこうのがあって自由に発想が出来ない、そういう環境なんだから、それを能力が低いとかどうか言う気は更々ありません。皆さん、私より頭は良いでしょう。公務員試験を通過して入られている訳ですから。そういう事を言っている訳じゃありません。発想の仕方です。物の考え方、それを少し変えてもっと自由に物事に縛られないで自由な考えを出して、自分の責任でやってみたらどうですかというお話をしている訳であって、先ほどの言われ方はちょっと私は少しちょっとカチンとききましたね。というような事で、これからもこの状況の難しいところにおかれているという事は町長さんも認識されているようですから良いのですが、それを少しでも人口が減らないように減る速度が遅くなるように、或いは新しい雇用、高校問題、農業と林業を取り巻かれている環境は厳しいものがありますが、その中で発想の視点を変えていただいて、横並びの中はその中の一番しかなりませんが、違うものがあれば何とか生き残れると。先ほど言いました羽咋市はコスモファイルというアポロの月面着陸とか月面探査なんかをNASAから無償貸与してもらった博物館もあります。そういうマニアックな物でも違えば、そこにはそれが好きな人が来られる訳ですよ。そういう方法を選ぶのも1つの道であろうし、皆さんの中で他の町村と横並びの中でサービスで一番を選ぶのも道でしょうが、何れにしてもその同じやるなら他所の町村に負けないようなこの第5次総合計画を実りのあるものにして、「やったで」というように皆さんが言えるような町づくりを進めていってもらふ必要があると思います。もう一度、町長さん、先ほどの発言は訂正していただいて意欲のほどをお聞きます。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

私の発言、違っていたようですが、職員がこれから弾力的な運用、頭を柔らかくしてこれからいろんな事業を展開する事を考えていきたいと思えます。そしてそういう事を通じて町民の皆様の満足度を高める事業展開を進めていきたいというふうに考えます。

議 長

高良議員、残り10分です。再質問ありますか。

(「終わります」の声あり)

はい。

々

以上で、「川本町の将来への方向性と方策を問う」の質問を終了します。

々

これもちまして、高良議員の一般質問を終了します。

議 長 以上をもって、本日の議事日程は全て終了しました。

々 明日、10日の本会議は、午後3時00分より開会となります。
ご出席のほど、よろしくお願い致します。

々 本日は、これをもって散会と致します。
長時間にわたりお疲れ様でした。 (午後 1時51分)

この会議録は、川本町議会事務局長 宇山 廣繁 が記載したもので、その内容において、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員